

日本ナシの人工受粉用花粉の効率的採取法						
<p>[要約] <u>日本ナシ</u>の<u>人工受粉</u>に使用する<u>花粉</u>を採取するときは、満開期直前の果そうごと花を採取すると従来の1花ごと採取する方法に比べ、採取効率が2～3倍になる。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
資料名：平成10年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

日本ナシは大半の品種が自家不和合性であり、受精には他の品種の花粉が必要である。そのため、単一品種しか栽培していない場合や混植している場合でも低温で虫媒が期待できない場合は結実の安定を図るため人工受粉が必要である。人工受粉は多くの労力がかかるため、最近では機械による受粉が取り組まれているが、大量の花粉が必要なことが問題である。そこで、従来の方法よりも花粉を効率的に獲得するため果そうごと採取する方法を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①一定時間で採取できる花の数は果そう単位で採取する方法は従来の花単位で採取する方法に比べ、3倍程度多い(図1)。
- ②得られる純花粉の量は花の数が多いことから、果そう単位採取法が花単位採取法に比べの2～3倍多い(図2)。
- ③得られた花粉の発芽率は採取方法による差はない(図3)。

[成果の活用面・留意点]

- ①果そうごと採取する本法では花芽中の葉までとってしまうので、受粉樹の葉数が不足し、樹勢が低下するおそれがある。受粉樹にする樹はせん定時の花芽の整理を控える。

[具体的データ]

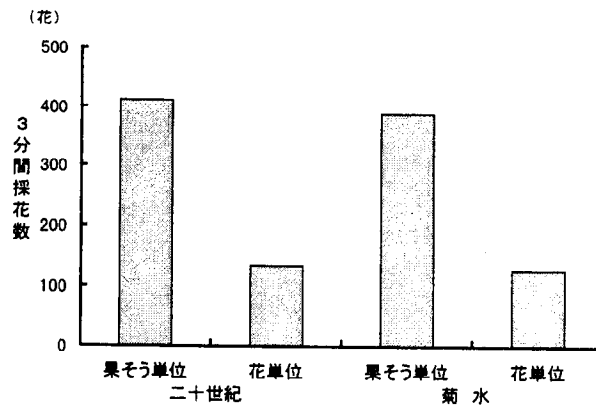


図1 日本ナシ花の採取方法と採花数

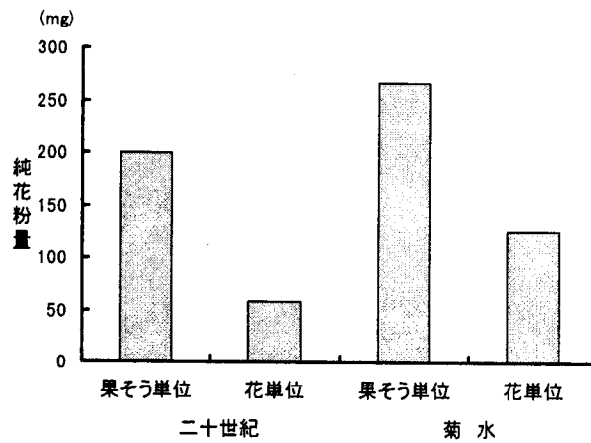


図2 日本ナシ花の採取方法と獲得した純花粉量

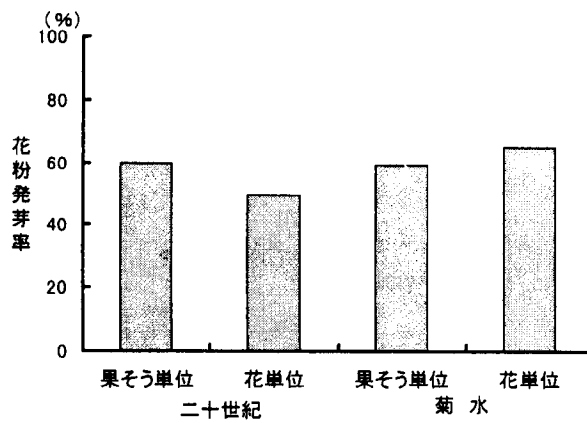


図3 日本ナシ花の採取方法と花粉発芽率

[その他]

研究課題名：西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予算区分：地域重要新技術

研究期間：平成10年度（平成9～13年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文等：なし